THE WOMAN'S WEEKLY

第三巻　第四十三號

大正五年十月廿六日發行（毎週金曜日發行）

大正四年十一月四日第三種郵便物認可

婦人週報

目次

□小學女教員大會……小橋三四子
□婦人の力……新渡戸博士
□私の一日「三角錫子女史」……記者
□婦人界開拓者の家庭訪問「書齋を伴侶の成瀬仁藏氏」……小枝
□女教員大會に臨んで見る記……記者
□文展のぞき……I子
□いろ〳〵の社會「車掌の奥様」……佳子
□草木に施す堪寒の手當……日白宮　春閣
□天長節の家庭の小宴に……川崎正子
□オハナシ「自然兒」……琴子
□索引　自大正五年十一月至六年十月……
□時事……編輯室より……

定價一部四錢五厘　郵税五厘

婦人週報社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御註文の節は婦人週報にて見たる旨御記入を乞ふ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小學女教員大會

▲小學女教員大會は、近來の快事でありました。北海道から出席された女教員の一人が、兒童の體育問題を論ずるに當り「東京に來て一番目につくのは、子供の美くしく弱々しい事である、都會は人を殺す處である」と痛罵せられましたが、文明は兒童のみならず、都會人をして漸く纖弱たらしめ、何れの婦人會に出ても、美しく裝ふた所謂貴婦人を見るのみで、潑溂たる論戰を聞くなどは思ひ掛けない所であります。智識階級の婦人の會合なども、內面的に多少の深みはありませうが、意見を發表するに當つても、右顧左眄して兎角臆病となり、司會者は會衆の發言を促すに努力するといふ有樣が常であります。これ等を見馴れた眼には小學女教員方の大膽なる發表振りが、恰も維新の頃の男袴を着けたといふ女學生を聯想せしめました。そして他人を恐れず憚らぬ純朴さや、其の決議は以て天下の風潮を阻むに足るとの衝天の意氣と赤誠とは、人をして涙を催ほさせるものがありました。而して明晰な批判の下に終始寛大な態度を以て自由な氣分を與へられた澤柳博士の好箇の議長振りには局外者なる私共も同性として深く謝したのでありました

謹んで天長の佳節を祝し聖壽の萬歳を祈り奉る

▲我が次代の國民を預る女教員諸氏に此の勇氣と熱誠あるは、誠に賴もしい處であります。今後之れに新らしい知識が加はつて、洗練せらるゝに於ては、必ずや我が國民教育の改善のみならず、我が婦人界の一大革新が行はれるであらうと期待されます。今日の狀態を以て見れば、其の赤誠と勇氣とは、往々にして知識の羅針を缺くかの如き恨みがあります。殊に裁縫教授法の問題に於て、大方の女教員が、僅かに六年の義務教育の中に、專門の仕立屋を作らうとするのではあるまいかと思はせるやうな、注文澤山な議論が百出しました。この人々はまた一方に「女子の兒童期を出來得る丈け長からしめ度きこと」と申す決議をしましたが、この二問題の間には少くとも矛盾を感ずるのでありました。これは今後の女子はどこに最も力を注いで、其の發達を計らなければならぬかといふ其中心問題を疎かにして、枝葉の問題に沒頭して居る爲め、一定の方針の立ち難いのではないかと思はせるのでした。

▲また世の浮華な風潮を嘆き、質素勤勉を奬勵し、忠君愛國の念を益々熾烈ならしむべしといふ其の言論には、何人も異存を挾む者はありますまいが、時勢の赴く所、自ら其の內容に變遷あるを考へなければ、却つて世界の大勢に反抗する固陋な德義者を作るか、二重人格の叛逆者を出す嫌ひはあるまいかと思はせるのでありました。而して先づ女教員其の人々の、常に世の思潮を汲み分けて行く丈けの理解と同情とを養ふ事が最も大切である、といふ事に歸着するのであります。而して次代の國民を養成する小學教員諸氏の決議は、また現代より一歩先んじたものであつて、初めて其の使命を完うしたと申すものであらうと思はれます。(三四子)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人の力

洋々たる春光に接觸せよ

農學博士 法學博士 新渡戸稲造

口深く遺憾に思ふ事

私はこの頃能率増進、即ち我々の能力を最も有効に用ふる方法を研究しつゝ、深く遺憾に思ふ事は、日本人程隠れた力を用ひずに居る文明國民はないといふことである。各自寶物を持つて隠して居る、掛物を持つても秘藏と云つて、人にはをろか自分自身も滅多に見ない。家を建てれば、塀を高くして、人に見えないやうにする。丁度分福茶釜の坊さんが、夜そつと狸を呼んで踊らせ、お小僧にも見せなかつたと同じ格である。我々は世界全體を利用―利用と云つて語弊があれば善用しなければならない。ナポレオンは人をも機會をも利用した。或人が「もし空が落ちたらどうなさる」と問ふたら「其の機會で鳥を捕らう」と云はれた。

口心の不自由な日本婦人

今日の經濟上の問題は、如何にして富を作り出すかにあらずして、如何にしてこれを分配するかにある。生産の事業は男子の手に須ち、分配の方法は女子に依らねばならぬ。其の機關たる婦人の働きが缺けて居る。三千萬の女の力は潜伏して未だ其の用を爲さぬ。歐米の先進國では男子も女子も夫婦共稼ぎして居る。然し働らいても能率の少い働らき方であつてはならない。三四日前私は新橋の勸工場を巡つて、世の中には隨分有つても無くてもよいものが多いと感じた。殊に婦人の身邊を飾る物などは、無い方が樂ではないかと思はれる虚榮をそゝるものが多い。私共の望む所は、婦人の力を最もよく使ふことにある。支那婦人は纏足して身體の自由を束縛して居る。私は先年臺灣に渡つた節、支那は婦人の纏足によつて、どれ程の國力を減殺して居るかを調らべた事があつたが、何億圓といふ金額に上つた。臺灣丈けの婦人の纏足でも何百萬圓の損失である。これを見て何人も愚の極といふであらうが、日本婦人は見えない心を縛られて居る。よい事を考へ、よい事を實行するさへ、他人の批評を憚つて、爲ない。日本では―私は特に日本ではと云ひ度い―人に親切をすると親切ぶると云ふ。善い事をすると僞善者といふ。爲すべき事でも、善事でも、手を出すには非常に

二

勇氣が入る。それで「手も出さず、頭も出さぬ龜は萬年」結句引込んで居るのが安全第一といふ事になる。然し時勢はこれを許すか。

口良妻賢母の資格變遷

形象文字によれば、婦は女が箒を持つた形であり、人は長短上下の二本が互に支へ合つて居る形であり、力は手である。昔ならば婦人の力は掃除する事に限られて居つた。今日の女子教育主義は良妻賢母に極限して居る。何處の國でも良妻賢母を尊ばぬ處はない。然し家に掃除してのみ居つて、良妻賢母たるを得るか。飯を焚くにしても、石炭、瓦斯、炭、薪等の事も考へねばならぬ。飯を焚く一事でも廣く知識を世に求めねばならぬとしたら、況して良妻賢母たるには、朝から晩迄引込んで居つては出來ない。夫と肩を比べる程の學殖才能は無くとも、夫

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の専門はどういふものか位は知らなければ、良妻にはなれぬ。賢母たるにも其の子女の教育を學校教師に一任して、能事終れりとするは誤りである。今日學校教育の效果の少いといふ事を屡々難ずる者があるが、學校教育に改善を促すべきは勿論であるが、また一家も大に其の職務を怠つて居る事を責めなければならぬ。もし家庭が子女の教育を學校と共に分擔する事が出來る程に進めば、教育の能率は大に增すであらう。而して賢母たるには當然時代の進歩に觸れなければならぬ。

□シビツクといふ言葉

シビツクの問題も、其處に出立して居る。即ちシビツクとは市民心得、或は國民學とでも云つたならば、適譯であらうか。とにかく文字の表はす如く市の改善進歩に力を致すもので、一部に我が家の存する市、即ち境遇の向上を圖る企てゝある。元來シビツクといふ文字は西洋でも新らしい言葉で、私が米國留學中、今から三十五年前頃に初めて出來た言葉である。政治をポリテツクと云つたのは、希臘語で市をポリスと云ふにより、其の市を治むる方法であるからポリテツクと云ふに至つた。シビツクも之れと同じく羅典語で町をシビルといふ處から、町に關する知識をシビツクと云ふに至つた。米國ではポリテツクといふ意味が、日本の所謂政治屋と云つたやうな嫌な意味を持つやうになつたので、大學の政治學をポリテツクと云はずにシビツクといふやうになつたのが、かの三十五年前頃の事であつた。爾來シビツクも次第に變化を來して、社會全體の制度を研究するといふ意味になつた。或人は國民の義務を盡すは品性であるとて、シビツク即ち品性といふが、それは少し遠廻しの感がある。兎に角國民として缺くべからざる知識を持ち、其の改善實行に預る事で、市民心得と申すが、穩當であらうと思ふ。

□東西婦人の協力

日本に此の話の初まつたのは今から三四年前で、日本にある外國婦人が一團を爲して、シビツクを組織するから、私の妻に會長に爲つてくれといふ賴みであつた。妻は私に相談を持ち出したので「日本の事情もよく知らぬ人々がよつて、あすこの道路を改善せよ、此處の下水が臭いと云はれては、却つて市政の妨げとなるであらうから、止めたがよい。然し目的を變へて日本のシビツクを研究し、之れを知らしむる會にしたらよい」と忠告した。其の後シビツクは其の目的を以て每月集合し、日本の憲法は外國とどう違ふか、刑法はどうか、或は縣、國、村、大字はどう、人口はどう、行政はどうといふ事を、適當な人を聘して學び、稍々日本の事情にも通ずるに至つたので、今回廣く日本婦人と協力して其の事に當らうとしたのが、この大正婦人會の起つた源である。今後は日本婦人も廣く知識を世に求めて、其の潛める力を發揮したいものである。家にのみ籠つて炬燵の火の暖さに戀着せずに、出て洋々たる春の陽氣に接觸し、知らずして過して居つた光りの恩惠を受けるやうにしたいものである。

□婦人の手を須つ仕事

社會には婦人の手を須つべき事が甚だ多い。今回の暴風雨の慘害地を慰問して居る有樣を見て熟々感じた。人に物を遣るにしても上手下手がある。踏ん付けて遣れば、乞食も之れを取らぬであらう。然るに役所から出張した役人達が、官僚風を吹かせ乍ら横柄に施しをして居るのを見れば折角の救濟費を全然殺して使つて居るやうなもので、

三

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

却つて恨みを買ふばかりであつた。もしも此の際全婦人會が合同して、政府の救濟費を引受けて、眞の温情を注ぎつゝ頒つてやつたならば、どれ程の助けであり、喜びであつたであらう。

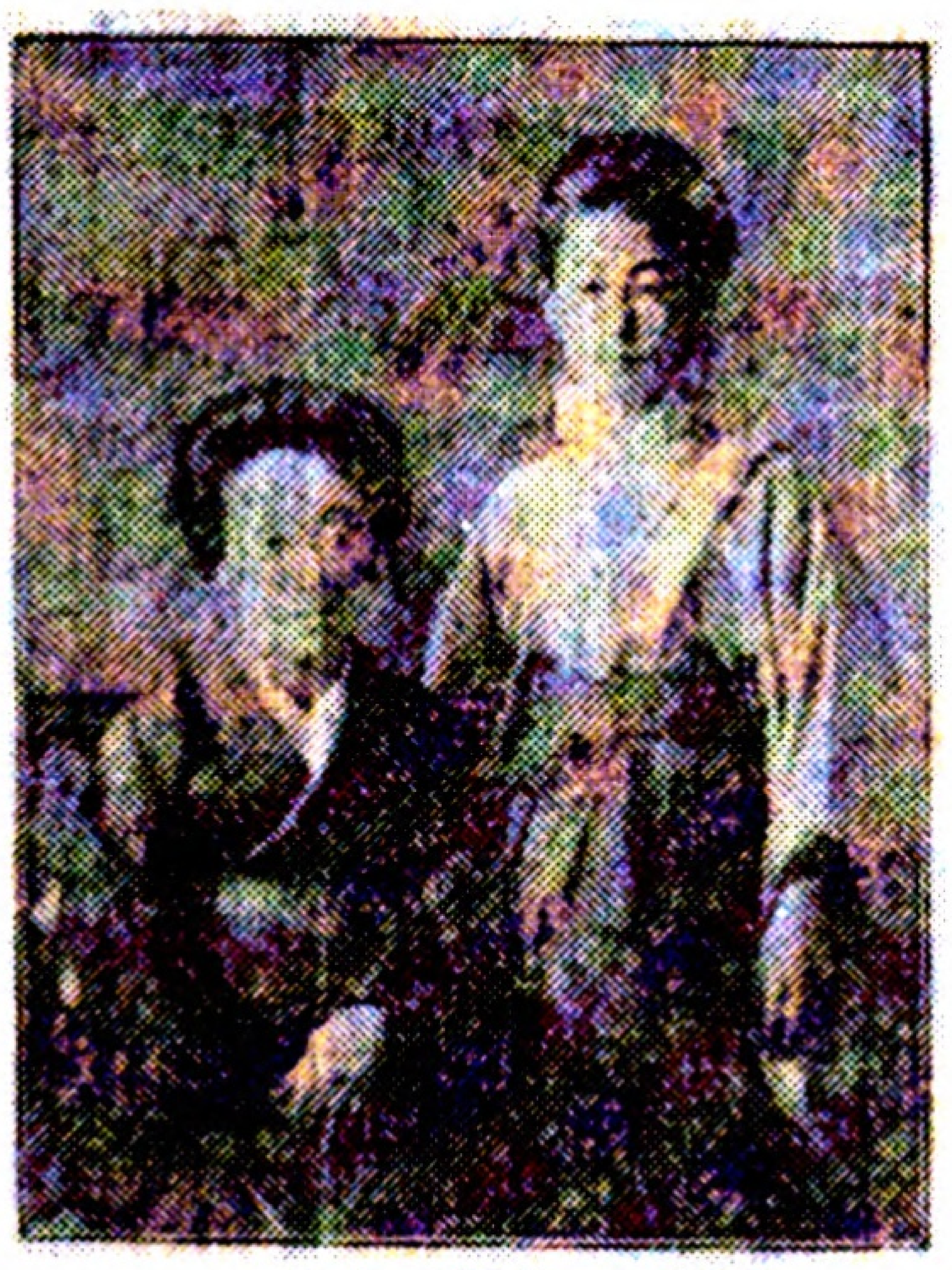
私が獨逸に留學中、慈善をする婦人を養育する處に行つた事があつた。其の時青々とした片田舍に眞黒な服裝をして、頭に小さい純白の頭巾を着けた婦人が、貧しい人に施しをして居つたその美しさは、繪のやうに今尚ほ眼に映つて消えない。同じ一杯の食を與へるにしても、「これは冷たいが、後から湯を持つて來てあげるよ」とか「さあ温かい中におあがり」とやさしく云はれたら、侮蔑の千金にも變へられ難い力を得るであらう。婦人が天性憐れみ深い心を持ち乍ら、被害地の慰問一つにも、官廳の手を助ける事が出來ぬとは情けない次第である。今後市民心得なるものを研究して行けば、益々婦人の手を要するものは多々あるであらう。而してこの公の事に盡力する事が、決して家庭を以て根據とする年來の希望に背くものでない事を知らるゝであらうと信ずる。（大正婦人會發會式上にて）

四

私の一日（三）

三角錫子女史

▲「先生はお宅ですか？」取次の若い方にかう問ふてゐる後から、「アラまあ…」さ賑やかな笑ひ聲を漲はして、元氣な先生は顔を差し出された。「今ね花の種子を蒔いてたんですよ… だつて春が來たつて何も咲くものが無くなつたんですもの…」動作經濟で知られてゐる三角錫子女史は又頗る園藝趣味の深い方である。のみならず文學も音樂も數學も先生の趣味のおもむかざるはない、「多情なんですね、氣が多いんですよ…」さう云つて先生はほゝゑまれた。



最近の三角錫子女史
右方に立てゐるは愛孃

▲土いぢりをしてゐられた其まゝの姿を先生は應接間へ運ばれた。細かい絣の筒袖に色褪せた前掛スタイル、金縁目鏡だけが妙に目立つ、「だつて私の金縁は實用なんですよ、鐵ですと錆が出ますし、白いのにすると緑青か出て叶ひません、なにしろ三度中ですからね」と云つて目鏡を取つた先生の目は氣の毒な程まぶしさうにまたゝいた。「夕方近い體を縛られてゐるんですから暇といふものが私にはありません。學校の方は手が不足だし、家の方には女中が居ませんので、一切私の手一つです」破れ目のあるもぢり袖で拭かれた目鏡は、やがて先生の兩の眼にかゝる。硝子戸を透して、見える秋の森を先生は心地よげに見遣つてゐらした。反對の窓からは先生の學校―常盤松女學校の校舍が人氣の無い沈默を守つてゐる。畑の名も知らぬ紅い花は、肌寒い風に身振ひして、黒土の上へ模樣の樣に花瓣を振ひ落した。花造る人の優しい心を眺める樣に、私は飽かず外を見やつた。

▲「いつか御誌に載つた毛髪の話ね」先生は思ひ出した樣に言葉を續けられる「あれは結構な事ですから早速生徒達にも話して、實行させて居ります。」可と信じた事を直に實行なさる先生の尊さを私はしみぐ\と感じさせられた。

▲「ちよつと先生に…」と下から呼ばれて暫し座をはづされた先生は、數分間許り經つて再び昇つて來られた。其右手には大形の名刺と十圓紙幣とが握られてゐた。「此頃は小錢が拂底な折柄、月謝や十錢以下の水害附金を集めましたら、小錢が餘り澤山でしたので、停車場へ持たせてやつたら此名刺の裏にお禮が書いてありますの」先生は斯う云つて手の中のものを卓の上へ置かれた。小さな事でも實行程尊いものはない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人界開拓者の家庭訪問（七）

書齋を伴侶の

成瀬仁藏氏

▲日本に唯一の女子の大學校、それは目白の日本女子大學校とは事新らしく申すまでもない。校長を成瀬仁藏氏と申すことも御披露には及ばないと思ふ。けれど、婦人界の開拓者としては、明治も稍々末の頃から大正の今日へかけて實に十有七年、一日の如く氏の精神も、身體も全部女子の教育といふ事の以外には出ぬ熱心と努力とを吾等日本の婦人は謹で謝さねばならないと思ふ。

▲此門を出でた幾多の婦人は最も新らしい智識と健全なる思想を持つて世に處してゐられる。そして波動をなしてどれ程集まる周圍を益してゐられるか。それを思ふと其の源は何處？遡つて再び成瀬先生のお名前を記るすわけである。先生は既に六十路に近い半白の好大人である。其の優しげな眉、懐かしげな瞳は幾多妙齡の女子の尊敬と崇拜の的となつてゐるのも當然なのである。お樂しみと云へば讀書が御生涯を通しての唯一のものとしてをられるのである。夫人も在さず、從つてお子達をも持てをられぬ先生は、言ひ換へれば書齋が好伴侶の夫人であり、幾多の生徒は愛兒の如きもので在らるゝに違ひないのだ。

成瀬仁藏氏

▲而もそこに世の常の人が嘆ずるが如き敢へて寂寥とも思されずに、一向に育英を事としてゐられるものである。思へば如何に尊い天賦の所有者であることよ。亦想ふに先生程幸福な月日の下に起たれた方も世には少いことゝ思ふ。見よあの盛大なる女子大學校の發展せる樣を。今や世界の大亂渦中に一方の强者としての日本の國民の半數を數ふる女子の中の中なる數百の才媛達を敎ふるに、まづ精神的方面から出發して敎へ導いてゐられる。それには先生は驚くべき努力を敢へてしてまでも、一週に二度の講堂倫理、さては研究會、修養會と殆ど絶えず、生徒と接近して、親しく敎訓を垂れ、新日本の新人物を養成してゐられるのである。そこに希望と、慰藉とを一倍多く獲得せられて他の窺ひ知ることの出來ぬ多幸な日々を送られてゐる。

▲先生は御自身の健康なことを非常に喜んで次の如く語られた「私は食物の事は勿論注意してをるのですが、運動をよくするのが保健の大原因だらうと思ひます。若い時は馬に乘り、自轉車へも乘りました、が近頃は自轉車は走る時は早いが掃除などが大變手がかゝるので緣が遠くなりました。それでも仕事と讀書との間には必ず運動をする事丈は怠らないのです」と、夏季の輕澤に時々馬乘の先生の姿を綠陰の間にほの見て、若い女學生達は何なに慈父たる校長の健康を祝してゐるか知れないとのことである。（小枝）

うつせみ

安中花子

うつせみの身はなる儘に任せてむ若き心は人に奪はれ。
かにかくに我が命さへうとまるゝ此の頃人のよく死ぬるかな。
唯暫し我を忘るゝ喜びの其の束の間に死なましものを。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女教員大會に臨んで見る記

―立派な婦人議場―

□第一日目

全國小學校女教員大會が、廿日から三日間、神田一ツ橋の帝國教育會内に開催せられた。入口に貼附された男子禁制の紙片は社會に何をか暗示する！北は北海道南は沖縄から、尊い使命のもとに選ばれた、女教員の數は百六十名。二十代の若い人五十代の老婦人も、緊張し切つた面を正面に向けて、言々句々一つも洩らすまいと構へてる。縞の着物、白襟紋附に威儀を正したるも、皆きちんと袴を穿いて自分の番號札の前に座して居る最初の日は會長澤柳博士の開會の辭に次いで、文部大臣の訓辭があつたりして、男子禁制の此席にも關谷秘書官、槇山督學官、湯原女高師校長、瀧澤青山師範校長、中川前女高師校長等二十名程の來賓が見える。此日議事に移つたのは十一時を過てゐた。槇山督學官は文部省諮問案『小學校に於ける女兒の教育上特に留意すべき事項』『小學校に於ける裁縫科の教授をして一層有効ならしむる方法』の二項につき、提出主旨の説明あり、これに對して各十三名の委員を指定し。次いで研究問題第一號案より第六號案迄を、委員淺石ちゑ、市原すみ、片山しげ、水野世知、後永すみ、馬上てるの、等の順序に説明した。一案毎に九名の委員が指定される。説明中も活氣に滿ちた場内には、應接いとまなき迄に頻々と質問が出る。

委員は凡て市内訓導として、十年以上の經驗者とて、極めて要領を得、終始落ちついた氣持の好い態度であつた。質問の多かつたのは第二號案の有夫女教員問題であつた。有夫教員の時間や俸給を減少するさいふ項は、其夫の事情をも調べて提出したのでせうか？或は又學校の經濟から來たものでせうか？又有夫者の教化力の利害に依つたのでせうか？など質問は百出した。次に滿場を賑はしたのは第三號案の、我國小學女教員の缺點として研究工夫の精神に乏し、應用の才に乏し、學力に乏し等の三點を擧げられた時、廿四番（愛宕小學訓導福井しづ）はつさ立つた、「それは何れも女子の腦力からの事實上から出た問題でせうか」さいきまけば「此等の缺點はいづれも先年開かれた教育會に依つて認められたのですから、まあ殘念ながら事實だらうさ思ひます」さ委員は答へる。十八番（小樽補原美壽惠）はつさ立つた、「それは現在に於ける小學女教員の事ですか」さきつばり念を押す樣に問ふ、「左樣のやうに考へられますれ」委員は只斯う答へた。四、五、六案說明終つて晝を餘程過ぎた頃、今日の議事は終る事にした。

六

□第二日目

小雨そぼ降る第二日目の議場は、更に活氣漲り、定刻九時に遲るゝこと十五分、温容なる澤柳博士は徐ろに議長席に上り、直に議事を開始す、先づ文部省諮問案より始む、第一號案は委員長欠席の爲二號案「小學校ニ於ケル裁縫科ノ教授ヲシテ一層實効アラシムル方法如何」の答申案を委員長市橋なみ（東京女高師訓導）に依つて說明せらる。教師、教材、教授、設備、兒童用教科書等の五方面に分たれ、更にそれを細かく說明してある。其中姦びすしく問題にあがつたのは、文部省の國定教科書の可否であつた。新しい師範卒が新しい方法で裁縫を教へた時に、其風俗習慣を辨へぬ爲めに、親達から思はぬ攻擊を受けた事がある。風俗習慣を異にする地方〳〵に依つて一定した教科書に依る事は、難いといふ、不贊成の聲が姦しかつた。時しも、二十七番

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（京都府下森下ます）は、原案に賛成しますッと言下に云ひ切り言葉をつゞける、……その樣な聰明な人許りならば結構ですが（皮肉なので一同苦笑する）たよるべき教科書もなくて何を標準にしませう』と原案賛成の意志を表志するや、少數の反對者を殘して原案は通過す。其代り『教員は裁縫に關する土地の流儀習慣を知ること』といふ一ケ條を附加する事にした。

次は諮問案の第一號案「小學校ニ於ケル女兒ノ教育上特ニ留意スベキ事項如何」につき東京女高師訓導水谷年惠欠席委員長の代理して答申案を説明す、

折しも二十三番の本所 江東 小學訓導高橋さき子は「しばし」と議長の許可を得、男女兒童の身體の差より始めて分り切つた抱負を長々と述べそめたので、場内はだれぎみになつて、ちらほら欠伸さへ見受けられるのに、頑張れて立たのは五十三番（奈良縣池尻ゲル）である曰く「二十三番は甚だお得意のつもりだらうが、貴重な時間を我々はそんな事を聽きに參つたのではない、宜しく議長閣下の洞察を乞ふ」と議長は苦笑して承知のむれを答ふれば、拍手は陽氣に鳴り渡る。場は再び引きしまつて僅かの修正案が提出されたが、結局多數決を以つて原案は可決された。時正に十二時。

午後當局に對する希望も可決となり、いよ〳〵研究問題第一號案「我國女子ノ身體ヲ一層強壯ナラシムル方法如何」に移る。七十五番（宮城縣長江みさを）調査委員長たり、十の項目の中、「教授時數ノ輕減ヲハカルコト」は大多數にて刪除され「衣食ノ改善ヲハカルコト」の項衣食の次へ住を追加される事が可決せられ、此日の議事は終り、後一時間、下田歌子女史の講演あり終つて有志二十八名の中題目に依り選定したる九名の八分間經驗談があつた、時計を前に話半ばで止めニの鈴が鳴る。何れも眞摯な熱辯であつた。

□第三日目

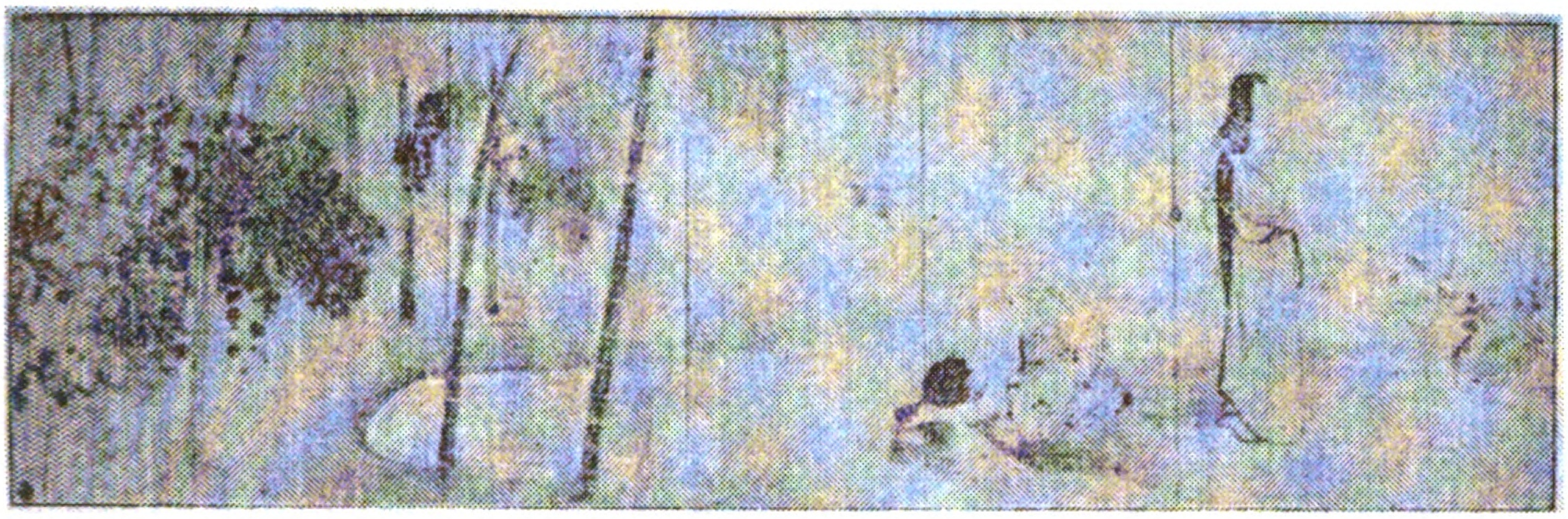
久しぶりで晴れ渡つた秋空、清々しい日光が玻璃窓を照して居る。午前九時の振鈴と共に、議事は開かれた。研究問題二號案調査案、例の行きなやみ勝な有夫女教員問題である。有夫者の爲に特別な便法を設けたらといふ案に對して、調査案は、三つの理由を列擧して否決してゐる。日本橋東華の水野世志子は起ちて有夫者に便法を設くる事は誠に結構である、全能の神でない以上家庭も學校も兩々相俟つて完全する事は凡人の及ぶ所でないでなければ兩方好いかげんでおかなければならないといふ點から説いて二號案に賛成をした。もし此案が通過しなければ毎年提げて出ると絶叫する人も生じた。之に反對する數名は白熱の如き能辯を振つて起立した、「私などは毎年子供を産で、しかも校務を欠いた事がない、便法などを設ければ、便法のおかげでどんな迫害が迫らないとも限らない。」次の起立者は又云ふ。「學校の子供に教師の替りはありますが、我子にとつて母親は一人です、便法などを設けるよりは身を引いて子を育つるにしかず」など極説頻々續出して限りを知らず、遂に便法を否とする説大多數を以て決せらる。

三號案調査案は、我國女教員の缺點があげてある。實際上に於て認められたるや否やに於て又々だいぶ物議を醸したが、大體に於て認むるとし調査案にも掲げてある。二讀會に入つた頃、四十八番は、責任の重大なるを感ずる上から、體力と心力との養成といふ項を、原因といふ項目の中へ加へたいといふ修正意見を出した、其の他二三の意見も出たが結局何れも少數の故を以て容れられなかつた。矯正法の部へ行つて、一番の項目をさり職務に對する自覺を促す事、及び女教員待遇法の改良をさし加へ職務上有益なる會を設け、發表の練習をなす機會を作る事と改むる事は多數の贊成者を以て可決された。

柱の時計は十二時を報じた。殘れる三つの問題は殘念ながら大會に廻される事になつた。此大會を毎年開き度しといふ建議案は宿題にし、次いで手短かに閉會の辭を述べる。一同の總代として、沖繩縣武富つる子會長の前に進んで熱心な謝辭を述べた。有効なりし三日間の大會は此處に終をつげ、長針は十二時三十分を示して居た。

七

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



（黒髮）鏑木清方氏筆

文展のぞき

▲上野山下で電車から吐き出された群衆は、廣い道から山を辿つて、云ひ合せた樣に白い大きい建物の中へと吸はれて行く。美術家ならずとも、あこがるる文部省美術展覽會は、秋の都の花である。下足札を握つて目錄を買ふと、やがて美術の世界が展開されてくる。肩々磨する群衆のいきれは、羽織が恨めしい程暑さを誘ふ。見たい繪の半分は山高や中折にかくされて、夢中で背伸びをした格好が、自分ながらをかしくなる事がある。まるで繪に呑まれて了つてる人を私は折々自分の事の樣にをかしくながめられた。

▲『矢張り特選だなあ』野田九浦氏の妙見詣の前に、かう云つた人達が集つて見てる。六曲屏風に描かれた妙見詣での駕籠の中の女の美しさを、婦人達は褒めたゝへて居た。第三室へ來て小山榮達氏の狩が目につく。くつきりと浮き出た富士渺茫たる廣野に、散らばつた武士は、此日多かつたカーキー服の人達がもてはやしてた。「藥師詣」、もみの布を片目にあてゝ立つてる女の繪を、誰もが美しいと見た。小林大雲氏の神風に。特選の金札を付けて更に人の足を止めしめる。平福氏の評判の「豫譲」に同じ金札を下げて同じ室に光つてる。「馬がまるで活きてるね」『矢張り斯うしたものゝ方がいゝんだよ、あの人には……』二三人の紳士が斯う云つてなほも立ち續けてた。

▲次に人の山を築いてたのは清方氏の黒髮、輝方氏の凉宵、雄大な山のたゝずまひに妙味を見せた池上秀畝氏の峻嶺雨後等である。「春興」はたゞ可憐で美しかつた、花びらを弄ぶ子供、笊を伏せて雀を捕へやうとする子等の懐しいいたづら事が、女の人達の心を捕へた。ウンこれかへと云ひ合せた樣に若い男が立つのは島成園女史の「唄なかば」美しい座頭の一本絃の切れた三味線を持てる所在なさ。二十六室は特選揃ひで光つてる。

▲洋畫では、小さいもので氣持の好い長原氏の新晴が賣約札を下げて先づ目立つ。「大隅氏の肖像」「氷すべり」「母と子」など素人目にも氣持がいゝ。岡田氏の「花野」の前にちつと美術學校の生徒が立ち盡してた。彫刻では呼び物の「望洋」大洋を望める男は何を思ふてゐるのであらう、どこからかある力がこみ上げて來さうである。よく出來てるねとお婆さん達が褒めてたのは、「母」である。「無心」の題であどけない子供の裸體は洋望と作者を同じうするだけ意味深い。

▲露國女流彫刻家エリザベット女史の「獵裝の本野子」も見のがす事は出來ない、「旨いもんだねー」小さな鑄造を前にして、知るも知らぬも褒めちぎる。美しかつたのは北村四海氏の春、ちつと眺めて居たかつたのは、堀進二氏の肖像であつた。出口といふ札を見て魅せられた樣な頭腦は始めて我にかへると同時にいくぢなくも足の痛さを覺える。紳士、商人、番頭小僧、令孃奧さんお内儀さんサーベルさんから印絆纒まで、美術の世界も色々な目で色々に見られるのであらう。（佳子）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いろ〳〵の社會（二十五）

車掌の奥樣

▲電車の終點といへば、何れもこれから拓けやうとする、不規則な家並が、だら〳〵と續いて居る。どこの店頭にも鄙びた淋しみを漂はしながらも未開の土地が明るみへ向つて、一日毎に延びて行くのがはつきりと思はれる。私が切にそんな事を思つたのは新宿の終點からぐん〳〵と歩を運んで、縦横につらなる低い淋しい家並を歩いてる時であつた。大きな家と思つて立ち寄れば、幾軒にもくぎられた長屋であつたりする、角筈新町の車掌町！私はかう云ひたい――山の手線の車掌、池袋の荷揚人夫、市内電車の車掌等が、便宜上とは云ひながら、不思議に此界隈に屯してゐる――

「奥さん、お宅の旦那様は早出は何時でゐらつしやいます？』

『ハイ宅は朝の二時で交代になります』

左方の紐が半分ちぎれかゝつてる前掛で、着物の前のはだかるのが、辛じて止つてる。細紐一つで、平氣で井戸端會議の發會式が擧げられる、彼等の群には大抵帶をしめた所を見ない。それが奥様なのである。車掌とはいへ、官吏の妻である以上、彼等は互に奥様の尊稱をほしいまゝにしてゐる。目に見ずに耳の中で、ぢつと彼等の會話のみを聽く時は、なる程立派な上品な奥様振りである。

▲奥様方の日頃の仕事は殆ど麻絲つなぎである。夏の暑い頃は着物といふものを、肩から掛けた事もない、袖無し襦袢と下の物一つでせつせと絲をつなぐのに忙しい。奥様は又正直によく語り、よく笑ふ人達である。時折は近隣呼び集つてお茶會を開く。つなぎ溜めた麻絲を持ち寄つて、談笑しながら大きな毬に卷きあげる。其間彼等が頭惱をしぼつて知つてる人だけのあらゆる噂か、話題にのぼる。誰が男と逃げたとか、あそこの猫がひものをくはへたとか、呑氣な噂話に花を咲かせて、ハツハツと笑ひくづれる。眞から面白さうなのは彼等の生活である。生活の苦しさなどは、通り越したのか、彼等の口からは一つも聽かない。時々大きな聲で子供を怒鳴りつけたり、ぶちのめす樣な音がする。こんな事は子供の躾として、此社會には普通にされてる。割れる樣な聲を張りあげて、泣いた子もきやつ〳〵と笑ふのに早い。

▲月末の鬼が來やうと、彼等は少しも怖れない、『無いものは無いんだよ、誰も拂はぬとは云はないよ』瓦斯屋も電燈やも、奥樣の此言葉に辟易して、逃げ歸るのも珍しくはない、『昨夜質屋へ行つたら、いくら借したが、安いでせうか』『彼等は隣近所公然こんな話をしてる、何のみえもかくしだても要らぬ。彼等はいつも呑氣に春の樣な氣持で、麻絲をつなぎながら、話して笑つて、暮してゆくのである。

いろ〳〵の社會の一角に立つて、しみ〴〵と幾種類かの人間の階級を考へて見た。生きんが爲に働くのか、働かんが爲に生きんとするか。生に執着する人間の本性は、どの社會にも、強い色彩となつて現れて居る事だけは事實である。（佳子）

――「いろ〳〵の社會」終り――

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

草木に施す

堪寒の手當

秋蒔の草花

□秋草の刈取り

夏から秋を盛りとしてゐた草木は、是から冬籠りの時となりますので、堪寒の手當をよくしてやれば肥料はあまり必要とは致しませぬ。手近い處の秋草は花も過ぎたのですから、皆刈込んでしまつた方がよろしいのです。例へば萩も薄も桔梗もです。刈り取る時は地上と殆ど並行するのがよろしいのです。それは來年發芽した時に枝が確乎とするからです。

□球根類の貯藏法

球根類の中でも、一番素人方に知られてゐるのはダリヤですが、花が終りましたら根をほつて、一日位天日に晒して椽の下邊へ二尺位に地を掘り下げて埋めて置くのが一番よろしいのです。

□朝顔其の他の採種法

朝顔も夕顔もコスモスもダリヤも實の蒂が枯れ色になつたならば、むしり取つて、紙袋に入れ、口をよく結んで椽先の天井か日當りのよい軒下などに吊るさげて置くのが、一番簡單であります。

□鉢物は大地に移す

菊や其他の鉢物が既に花を終りましたら、其鉢のまゝで大地へ移して置くのが宜しいのです。鉢は素焼のものにかぎります。

□枯れて行く木は

同じやうに落葉しても枯れて死んでゆく木は注意して見ると分ることであります。落葉の時節が來て自然に落ちる葉は、枝が萎びて居りませんが、若し夏から秋へかけて故障があつて、枯れて行く木は、木の膚面が既に失つて小枝なぞに明らかに萎びてゐるのが見えます。早く氣付きましたら、庭師なり、園藝家に觀てもらつて、適當な手當をするのがよろしいのです。

□落葉は自然の肥料

眼障りになる前栽などでない限りは、木の根へは落葉を其のまゝ置く方がよい肥料となるのです、のみならず防寒ともなるのであります。然し邪魔であれば庭の隅なり、或は他の所へ掃き集めて腐らせて置いて、春蒔きの時に肥料として使ひたいと思ひます。

□風の吹く日と盆栽

雨の日はそれ程でもありませんが、強い風の吹く日は、彼等草木は營養を吸收する爲め、彼等の活動を休止して居り、從つて抵抗力が少うございますのですから、成るべく室内へいれて置く方が宜しいのです。然し平生は成るべく日光にあて、夜露に沾はせるのが發育保全に一番大切の事です。それ故大抵の時は屋外に出して置きたいものです。

□秋蒔の草花

今種を蒔く草花の内で、素人方に出來さうな數種をあげて見ますれば、アネモネ、金魚草、ダイアンサス、石竹、チキタリス、千日草などであります。

同く根分をするものは、デジー（雛菊）アルメリヤ燕子花、花菖蒲、芍藥、牡丹等であります。（目白富春園主人）

化粧問答

問　何時髮を洗ひましても臭氣があつて仕方がありませんが臭味のとれる洗方の御教示を（人形町　操）

答　何でお洗になるか知りませんが、完全な洗方をなされば決して臭味の殘る筈はございません。先づお湯を手の附けられる位の熱さに沸して置きまして掌でクラブ洗粉をドロドロに溶さ、生際から頭の地へかけて丁寧に幾度も擦り、それから段々毛先きの方へ洗つて行くので、其間に度々頭から掛湯をするのです、斯樣にして毛を摘んで見てパサパサになりましたら、お湯の濁らぬまですゝいで、その儘よく乾くまで結ばずに置きます。生乾きの内に油をお塗けになると、水が腐敗してイヤな臭ひがいたしますから、スッカリ乾くまで油は塗けてはなりません。乾き切つた所で、髮の艶を出すクラブ香油の如き植物性の油をよく地に擦込んで置きますれば、毛髮の發育を補け且つ決して臭氣などは殘りません。尚ほお洗ひになる度數は冬ならば月に一度、夏ならば二三度位が丁度宜しうございます。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

天長節の家庭小宴に

―一人前三十錢の献立―

川崎正子

□献立

一椀(松茸のシチユウ)

一皿(鯛の粕焼)

一酢のもの(鮞子「鮭ノ子ノコト也」の紅葉焼)

一口取(巖石玉子・生鮭の磯巻、茗荷の甘煮)

□代價

○松茸三十匁(廿錢)殼淺蜊一合(二錢)バタ山盛一さじ(三錢)〆廿五錢

○鯛の切身五切(五十錢)白味噌三十匁、(二錢七厘)〆五十貳錢七厘

○鮞子一本の三分の一(五錢)大根半本(二錢)煮切味淋五勺(九錢)〆拾六錢

○玉子五個(廿五錢)砂糖三十匁(五錢)生鮭三切分(十五錢)海苔一枚半(二錢八厘)〆四拾七錢八厘

○茗荷十個(三錢)砂糖十匁一錢七厘〆四錢七厘

以上總〆壹圓四拾六錢二厘

右は五人分の見積りでございますから、是を五分しますと一人前の費用即ち金二拾九錢二厘四毛となります。

□料理法

▲松茸は石付を取りまして薄皮をむき、よく洗つて、短冊形にきり暫く鹽水の中に浸して置きます。

▲殼淺蜊は米をとぐやうにしてよく洗ひ三合位の水の中に入れて煮立たせて、貝の口が開きましたらばうらごしを通して汁丈を取つて置きます。前の松茸をよく洗つて水をきり、バタを鍋に入れて溶けた處へ入れていためます。それからあさりのスープの中に松茸を入れ小匙(二さじ)のメリケン粉を水で解いて煮立たせた中へ入れてかき廻し鹽加減をするのです。

▲鯛は白味噌を味淋でゆるめた中へ十五分間程つけて置いて後二本の金串を打つて中火にて兩面を焼きます。そして殘りの味噌を魚に塗りつけても一度あぶつて皿に盛ります。

▲鮞子は生のならば前夜鹽を振りかけて置き、鹽漬けのものならば其のまゝで用ひます。有り合せの大根の尾の方でこすりますと綺麗にツブ〳〵が取れますから左樣してよく水洗ひをします。大根のおろしを拵らへて水をしぼり、一寸酢をかけてまた絞つて、洗つて置いた鮞子とまぜあえます。この上に甘酢をかけて出します。

▲甘酢は煮きり味淋五勺と醤油二さじ、酢二勺との割でこしらへます。

▲巖石玉子 は五ケの玉子を二十分間程ゆでて、白味は細くきざみ、黄味は裏漉しにかけて三十匁の砂糖とまぜ合せて、布巾につゝんで一寸蒸します。出來たか何うかは布巾の上から指でついて見てはね返るやうならよろしいのです。是を適宜の大きさに切つて置きます。

▲生鮭 は三切分を五人前に切り三四回醤油をつけては焼きます、そして青い色に變るまで焼いた海苔を程よい大きさにきつて、それで巻きます

▲茗荷 はざつとゆでて水を絞り砂糖と鹽少しにて文火にかけてよく煮ます。

問 お化粧した顔の白粉を急に落す時、石鹸などでは中々落ちませんが、何で落すのがよいでせうか。(青山 園子)

答 甚麼厚化粧でも、一度油をお塗りになつてから、石鹸以上のクラブ洗粉でお洗ひになれば綺麗に落ちます。

問 良人は髭を剃りますと、いつも剃刀負けがして困りますが、適當な藥は御座いますまいか (淺草 蔦子)

答 髭剃の前後に御注意をなされば、決して剃刀に負けたり、顔が荒れたりする事はございません。先づ第一に蒸タオルで二三度髭を蒸し、柔げた後剃刀を使ひますので、かう致しますとスラ〳〵と剃れて少しも痛みを感ずるやうな事はございません。剃上がりましたらクラブ洗粉で顔を洗ひ、クラブ美身クリームを剃つた後へ擦込むやうに塗り、濡タオルで輕く拭き取り、更にクラブタルカンをポツトで押へ加減に刷き付け、乾いたタオルで押へて置くのです。斯樣になされば、剃刀で荒れた皮膚も落付いて、すべ〳〵と氣持ちよくなり、決して剃刀に負けるやうな事はありません。

十一

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自然兒（廿二）

デビッドの助け（下）

琴子

二階に上つたデビッドは靜かにヴァイオリンを彈き出しました。ペレーは時節柄遠慮をすれば好にと下で心配して居ましたが、デビッドは彈ながらも本箱の後に秘してある金のお金の事を考て居たのでした。初めデビッドのヴァイオリンの音が何だか迷つて居るやうな調子でしたが仕舞には決心が出來たと見えて落付いて來ました。

そして間もなく下へ下りて來ました「ペレー、僕少しはお金が出せると思ふ」

「エ？何だ？お前考へ違ひをしちやだめだよ。いつもお前の言ふ黄金色の雲だの池だのつて夢見たやうな話しぢやないよ。」

「僕に金があるんだよ。銀ぢやないの、そして澤山もないや、けれどもみんなで百六十枚あるよ、これでもいいの？」

さう言ひながらデビッドは帽子には入つて居る金貨を出しました、其時のペレーの驚きは一通りではありませんでした、デビッドは問かれるまゝに、父さんから金を貰つた話をくわしくして聞かせました。ペレーはやつと安心したやうに

「ウン解つた解つた。さあ旦那の處へ行かふ、」と言ひました。

デビッドはそうつとハアレーの前のテーブルの上に帽子のまゝお金をのせました。

「お伯父さん、これが益にたちますか」と言ひました。

ハアレーは思ひがけない金を見て思はず手を出しかけましたが、ハッと氣が付いたやうに手を引つこめました。

「お前、どつからもつて來た。まさか、ぬ……」

「盗んだ」と言ひかけましたが、自分の顔をジッと見て居る正直さうなデビッドの目を見ては言ふ事が出來なくなりました。ペレーはその樣子を見て

「いゝや、旦那、そりや大丈夫だよ、親父がくれたんだつて言ひますよ。」ハアレーは頻りに金の由來を尋ねました。

「旦那、旦那、こりや廿圓金貨で、百六十枚あるから、丁度三千二百兩ありますぜ」

「エ？三千二百圓！こりやまあどうしたこつた、デビッド。」

折角出したのに、ハアレーは受取らうともしないで、こわい顔をしていろいろきゝますので、デビッドは悲しくなつて來ました。

「だが、ほんの子供だ、何の事やら解らんのだ。そんな者の金を使ふ事はだますも同じ事だ」

「いやそりや旦那、違ふですよ子供だつてお前さんが證文を書いて置けばいゝぢやないですかい。そして返へせる迄の一さい

の世話から學校へやる事からお前さんが見てやんなさりやいゝぢやないですかい。」

「ウン、それもそうだ。だが、デビッドやお前の親父はどうしてそんな金を持つて居たんだい宿無しのくせに。」

今迄だまつて下を向いて居たデビッドはハアレーの此言葉を聞いて嚴然立直つて

「僕知りません。けれども父さんが盗んだのぢやありません。」ときつぱり答へました。

ハアレーはこの言葉を聞いて思はずデビッドを引きよせて

「お前はいゝ子だ。孝行な子だお前が己れの子だつたらなあ。お前の親父さんが盗んだんでないから、己れも盗ない。がたゞ一寸借りて置く。だが其間はお前は己れの子供だ、いゝか、それではかしてくれ。」と言つたハアレーの目にはなみだが一ぱいでした。デビッドも「をぢさん、有りがたう」と言つて心からうれしく思ひました。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人週報 索引

自二巻四十五號
至三巻四十三號

□社說の部

祝立太子式 二ノ四五
本誌の一周年 同
婦人記者倶樂部の設けた制裁 二ノ四六
心の訓練 二ノ四七
結婚難 二ノ四八
婦人の學問は無用の長物なるか 二ノ四九
酒から起つた一大椿事 二ノ五〇
今年の婦人界(上) 二ノ五一
祝クリスマス 二ノ五二
今年の婦人界(下) 同
順境の日本 三ノ一
我が國民性とロダンの言葉 三ノ二
學生の食物 三ノ三
人の不足を告ぐる昨今 三ノ四
女學校卒業後の方針 三ノ五
女生徒の常識 三ノ六
毎朝手にする新聞 三ノ七
汽車中の婦人 三ノ八
學校選擇に就ての誤った觀念 三ノ九
浪費の多い生活 三ノ十
婦人と感情の訓練 三ノ十一
食糧問題 三ノ十二
學業の成績か最後の勝利者か 三ノ十三
婦人の團體 三ノ十四
婦人と能力 三ノ十五
金力と政治との接近 三ノ十六
不調和な家庭生活 三ノ十七
婦人と安息 三ノ十八
緑陰の讀書 三ノ十九
オリンピックを觀て 三ノ廿
新時代の婦人氣質 三ノ廿一
少年裁判所の必要と婦人の裁判官 三ノ廿二
地球に架る生きた電線 三ノ廿三
金の遣ひ方 三ノ廿四
祝地久節 三ノ廿五
婦人と職業的訓練 同
今後の愛國的運動 三ノ廿六
美人過重 三ノ廿七
避暑生活 三ノ廿八
兒童の信念涵養 三ノ廿九
母をして醫師たらしめよ 三ノ卅
夏期號 三ノ卅一
一事を徹底せよ 三ノ卅二
秋風立ち初む 三ノ卅三
旅行 三ノ卅四
落毛を拾つるな 三ノ卅五
冒險か盲勇か 三ノ卅六
婦人界の慶事 三ノ卅七
婦人會の心を注ぐべき研究問題 三ノ卅九
突如として現はれた帝都の原始生活 三ノ四十
近頃の女中問題 三ノ四十二
小學女教員大會 三ノ四十三

時事週評

▲東宮に拝謁の五女史▲ミテル嬢に御下賜▲世界的現代の名女 二ノ四五
▲兩陛下御奨勵▲米國大統領選擧▲教育者と婚姻問題 二ノ四六
▲ウヰルソン氏再選▲初めての女議員▲大杉榮氏刺さる▲電車割引時間變更 二ノ四七
▲藝術に國境無し▲三泰斗の訃▲本野子夫妻の歸朝 二ノ四八
▲獨逸の猛▲ジャックロンドン氏逝く▲女中難 二ノ四九
▲花の日會の寄附▲久野女史の演奏▲木村駒子の洋行 二ノ五〇
▲大山公薨去▲逝ける文豪漱石氏▲英國の新内閣 二ノ五一
▲獨逸の講和提議▲空の女王飛ぶ 二ノ五二
▲平和の曙光か▲第卅八議會開會▲文部省の懸賞當選發表 三ノ一
▲烈風中の觀兵式▲不遇な植物學者の爲めに▲學生招待會▲中條百合子孃の創作 三ノ二
▲聯合軍と獨逸の意向▲眞の富豪▲道徳の標準尚低し 三ノ三
▲二婦人會の弔慰會▲米國の婦人運動 三ノ四
▲下院解散▲英國と婦人參政權▲統計の示す日本の文化▲樂壇に起つ柳女史 三ノ五
▲米獨遂に國交斷絶▲新設さるゝ子供公園▲三輪田高女の圖書館▲外人の東京婦人倶樂部 三ノ六
▲米國移民案通過▲内務省の表彰▲理想的小學の開校 三ノ七
▲花嫁の自殺▲小蘇女史逝去▲用心に他人に頼むな 三ノ八
▲英國刑法の改正▲思潮問題と女子 三ノ九
▲婦人とヒステリー▲支那の政爭▲教育會の活動及結果▲神近市子の公判▲現在の華族數 三ノ一〇
▲支那の絶交決行▲空中王の死と我が飛行界の慘事▲第一高女同窓會の美擧▲東京にある櫻の數 三ノ一一
▲露國の革命勃發▲支那特使汪氏來朝▲新入學の祝ひ▲電車中の遺忘品 三ノ一二
▲露國革命の後▲海外多事▲市内百八十二校の比較研究 三ノ一三
▲皇后陛下御奨勵▲民意上達の道拓かる▲露國革命の裏▲女子大學の新學制案 三ノ一四
▲皇后陛下の御慈愛▲ランキン女史の非戰論▲花見客 三ノ一五
▲一人前五圓の所持金▲保護者會起る▲婦人自殺の年齢 三ノ一六
▲伊勢山田の公娼廢止▲日本勞働婦人 三ノ一七
▲佐方しづ子女史の勇退▲新設された子供の樂園▲端午の節句とお伽式人物▲女中の拂底 三ノ一八
▲極東選手權競技大會▲日本人の體格研究▲貴婦人の茶話會 三ノ一九
▲ルーズベルト氏の出征▲秋元子爵家の實立▲夏期と惡疫 三ノ二〇
▲明治帝の御聖徳▲小學校長の滿鮮見學▲ストラウト女史の忠言▲葉舟氏の新教育法 三ノ二一
▲英國皇后の御近況▲處女出産 三ノ二二
▲支那紛糾▲露國革命後の婦人界▲笑は健康の保護者 三ノ二三
▲中川校長の辭職▲珍らしい村長と村會議員▲獨逸の飛行機實用時代▲高等女學校長會議 三ノ二四
▲臨時議會開會▲米國飛行機五十萬臺▲發疹チフスの病源 三ノ二五
▲英國婦人遂に勝利▲愛國婦人會會長定る▲神近市子の上告▲米價奔騰 三ノ二六
▲門地よりか手腕よりか▲砂糖暴騰と鹽の品切れ▲小學教員の外國語學習 三ノ二七
▲東北大學の女子特待生▲電報十割の増加 三ノ二八
▲戰地に向ひし女軍▲獨逸の婦人服役義務説▲講習會 三ノ二九
▲婦人と帝大の公開講座▲貧兒の避暑▲ランキン女史と食糧問題 三ノ三〇
▲禁酒形勢▲新自動車取締法▲立秋 三ノ三一
▲家事教員の協議會▲上戸税一億圓▲

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

富豪の美擧 三ノ三二
▲名士相續いで逝く ▲婦人の論爭 ▲無智の悲劇 三ノ三四
▲死して餘榮あり ▲富豪の東北大學寄附 三ノ三五
▲物價調節令出づ ▲早稻田大學の騷擾 ▲科學的な家庭用具 三ノ三六
▲輸出制限及び禁止 ▲美術期來る ▲努力展覽會 ▲厄日無難 三ノ三七
▲反省と修養 ▲奥様藝 ▲女教員大會近づく ▲粗製濫造の取締り ▲自動車の墜落 三ノ三八
▲米國日用品禁輸 ▲急行列車の停車問題 ▲早大開校 三ノ三九
▲列車ボーイの心附廢止 ▲暴風雨後の疫病 三ノ四〇
▲積極的救濟策 ▲食糧問題 ▲軍國と子供 ▲東都の自動車數 三ノ四一
▲皇后陛下幼年學校に行啓 ▲北白川宮御渡臺 ▲都會の蜂窩生活 三ノ四二

□談叢の部

現代の世界的婦人(金子筑水、麻生正藏、クライン、田村寛貞、有島生馬、坪内士行) 二ノ四五
國家の繁榮を計る道(山内繁雄) 同
存娼か廢娼か(市川源三) 二ノ四六
戀愛に基く葛藤(馬場孤蝶) 二ノ四七
一夫一婦制(山脇博士) 二ノ四七、四八
婦人の運命(新渡戸博士) 二ノ四八
文明の重荷を負ひ得る民族(永井博士) 二ノ四九
愛の本義(植村正久) 二ノ五〇
議會に上らんとする少年裁判制度(穗積重遠) 二ノ五一
マリヤの胎教(久布白直勝) 二ノ五二
幸運の創造(松本亦太郎博士) 三ノ一
政治と日本婦人(高野重三) 三ノ二
教育ある主婦へ(高島平三郎) 三ノ二ー六
藝術味の乏しい日本婦人の服裝(齋藤與里) 三ノ二
列强と戰時の經濟(佐伯敏一郎) 三ノ六、七
下層民に對する社會政策(山脇博士) 三ノ八
現代の要求する思潮(桑木博士、馬場孤蝶、與謝野晶子) 三ノ八ー十一
獨逸婦人の大著(富士川博士) 三ノ十
伯爵家の悲劇(徳田秋聲) 三ノ十一
感情の訓練について(高島平三郎、矢島楫子、三輪田元道) 三ノ十二
春の行衛(中村星湖) 三ノ十三
女學校卒業後(淺田みか子) 同
指導者の覺醒(廣岡淺子) 三ノ十四
選擧に際して(奥野七郎) 同
ヒステリーの話(杉江薫) 三ノ十五
兒童と信念(倉橋惣三) 三ノ十六
米國の勞働婦人(鈴木文治) 三ノ十七
眞に社會に要求する婦人(T・H生) 三ノ十七ー廿
悲觀すべき日本の體育(寺田勇吉) 三ノ十九
婦人の仕事の變遷(山脇博士) 三ノ廿、廿二 廿三
先帝陛下の御聖徳の一端に就きて(石黒男爵) 三ノ廿一、廿二
街上所見(安倍能成) 三ノ廿一
戰時の教育(芳賀矢一) 三ノ廿二
天才の家系(井上博士) 三ノ廿四、廿五
婦人の依頼心(服部他介) 三ノ廿四
富は理想を行ふ手段(三輪田元道) 三ノ廿五
我が國婦人の自由なりし時代(佐々博士) 三ノ廿六
日本の印象(河上清) 三ノ廿七
人生は旅路(矢島楫子) 同
麗はしき母子の愛(服部他助) 三ノ廿八
我が國婦人の同盟して行ふべき急務(山脇博士) 三ノ廿九
家事手傳の教育的價値(守屋恒三郎) 三ノ卅
我が南洋への慰問旅行(木村清松) 三ノ卅一
赤城山頂より(服部他助) 三ノ卅一ー卅三
地方は神の國(森村男爵) 三ノ卅二
今の職業婦人(高野重三) 三ノ卅三
感化事業(久保良英) 三ノ卅四
思想の流行と之に對する態度(桑木博士) 三ノ卅五
婦人は社會上超然として去る客(松本亦太郎博士) 三ノ卅六
婦人專門家と余が女子教育主義(長井博士) 三ノ卅七
庭の小草(野口幽香子) 三ノ卅八
不幸の根を絶つ結婚法(山内博士) 三ノ卅九
國としての女(芳賀博士) 三ノ四〇
永久の平和を贏ち得る道(吉野博士) 三ノ四一
磨かれた二つの人格(廣岡淺子) 三ノ四二
婦人の力(新渡戸博士) 三ノ四三

□一人一評

後藤 和子 二ノ四五　山脇 玄 二ノ四六
徳富つる子 二ノ四八　田 やす子 二ノ四九
内田 政子 二ノ五一　島田のぶ子 二ノ五三
三輪田眞佐子 三ノ一　勝田いよ子 三ノ二
大山捨松子 三ノ三　岩崎なを子 三ノ四
仲小路やゑ子 三ノ六　根本さく子 三ノ七
松室こと子 三ノ八　岡田 操子 三ノ一〇
一木さく子 三ノ一二　安達ゆき子 三ノ一四

□應接間の五分間

小倉 末子 三ノ一六　鳩山 薫子 三ノ一七
佐方しづ子 三ノ一八　日賀田逸子 三ノ一九
岸 澄子 三ノ二〇　三宅 安子 三ノ二一
佐藤少將夫人 三ノ二二　河野 富子 三ノ二三
海老名みや子 三ノ二四　川合玉堂氏夫人 三ノ二五
濱尾 作子 三ノ二六　野口 梢子 三ノ二七
廣岡 [illegible]子 三ノ二八　林 歌子 三ノ二九

□面白かつた夏

森作 潤仙 三ノ三〇　西園寺新子 三ノ三一
安井 哲子 三ノ三二　大井 秀子 三ノ三三
川島 芳子 三ノ三四

□インスピレーシヨン

岩佐 鈴子 三ノ三五　田村 俊子 三ノ三六
徳永 恕子 三ノ三七　久野 久子 三ノ三八
植原久和代 三ノ三九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

□私の一日

野上彌生 三ノ四〇
古谷愛子 三ノ四一
坪内まち子 三ノ四二
三角錦子 三ノ四三

□社會の部

復活の家 二ノ四五
蘇生の喜びを樂壇に奏する 二ノ四六
久野久子女史 二ノ四七
二點の花 二ノ四八
遺愛のギタ
最初の女代議士△歸朝せる本野子夫妻 同
新らしいお婆あさん 二ノ四九
花ならば白梅 二ノ五〇、五一
久野さんの演奏會 二ノ五〇
暮近き街 二ノ五一
クリスマス・カロル 二ノ五二
暮の貧民窟を賑はす安物市 同
この揺籃 三ノ一
婦人矯風會の學生招待會 三ノ二
雪の世界 同
兜町に働く只一人の女 三ノ三
花々しき米國の婦人運動 三ノ四、五
重態にある野口小蘋女史 三ノ四
解散の日の議會傍聽 三ノ五
禁酒物語 三ノ六
托兒所の一日 三ノ七
圖書館の婦人 三ノ八
年動と犯罪（横山雅男） 同
神通力ありといふ婦人を訪ふ 三ノ九
虛榮と婦人の犯罪（横山雅男） 同
佛蘭西尼僧の勤儉生活 三ノ十
ふと散りし花 三ノ十一
保釋出獄された神近市子さん 同
革命起りし露西亞 三ノ十二
芽出度き舞ひ納め 同
日本の婚姻（横山雅男） 三ノ十三、十五
學校から社會へ 三ノ十三
大問屋になる迄 同
矢島老女史の胸像除幕式 三ノ十四
婚姻の種類が地方で違ふ（横山） 同
一人旅御用心 三ノ十五
隱れたる日本のナイチンゲール 三ノ十六
家事の講師に招かれた田中博士夫人 三ノ十七
母堂を伴つて來た鳥人スミス氏 同
今日總會を開く愛國婦人會の現狀 三ノ十八
花屋になつた遠藤清子さん 同
近く開かれた兒童の樂園 三ノ十九
雅びやかな御所のお茶摘み 三ノ廿
皮膚科を開業した女醫 同
ストラウト女史の忠言 三ノ廿一
水野葉舟氏の新敎育法 同
一錢學校 三ノ廿二
奇麗な朝鮮の女（栗原玉葉） 三ノ廿三
明治三女傑の一人前田たけ子刀自 同
人生のどん底より起き上つた林たか子女史 三ノ廿四
賃機織から百萬長者に 三ノ廿五
母の一心から生れた事業 三ノ廿六
自國の動亂に覺醒せる支那婦人 三ノ廿七
同趣味に結ばるゝ理想の家庭 三ノ廿八
稀れに見る清淨な漁村 三ノ廿九
ランキン女史の處女演說 三ノ卅
幼い音樂家 同
二十年の僻地生活 三ノ卅一
女敎員大會に選ばれた人々 同
配達夫と共に歩んだ大森郵便局長夫人 三ノ卅二
初めて大きな海へ 三ノ卅三
東都の婦人ホーム 三ノ卅四
針持つ手を暫し繪筆に代へて 三ノ卅五
厘錢を積んで築かれた家事研究所 三ノ卅六
住み心地よい印度の風物 三ノ卅七
統計に現はれた兒童の休暇生活 同
古賀液の發明を助けた博士夫人 三ノ卅八
院展二科を窺いて見る記 同
世間の景氣に洩るゝ貧家の妻女 三ノ卅九
悲しき餘生を華やかに生くる亡き勇士の妻 同
新歸朝の上代たの子女史 三ノ四〇
馬好きの夫婦 三ノ四一
東都にある蜂窩生活 三ノ四二
女敎員大會に臨みて見る記 三ノ四三

職業案内

女醫になるまで（吉岡彌生、井出茂代） 二ノ四六―四八
タイピスト（西内省吾外二人） 二ノ四九、五〇
保姆（安井哲子） 二ノ五一
裁縫（松江操子） 三ノ一
編物（大妻一惠） 三ノ二
刺繡（林利三郎） 三ノ三
速記（佃與次郎） 三ノ七
料理方（某洋人傭、某家の料理仲） 三ノ八
マッサージ 三ノ九
產婆 三ノ十
女の藥劑師 三ノ十一
圖案模樣家 三ノ十二
絞りの下職 三ノ十三
美顏術 三ノ十四
店員と事務員 三ノ十五
諸官省の女事務員 三ノ十六
筆耕 三ノ十七
小商賣 三ノ十八
記者 三ノ十九

いろ〳〵の社會

平民の飯屋 三ノ十四
水を世界の舟の家族 三ノ十五
ニコライ堂の復活祭 三ノ十六
兜町覗き 三ノ十八
地固めする女の群 三ノ十九
無料宿泊所に夢結ぶ人々 三ノ廿
貧兒等の惠みの園 三ノ廿一
景氣不景氣の晴雨計なる羹

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

育院 三ノ廿二
青物市 三ノ二三
玩具人形の生れくる世界 三ノ二四
山王の神輿 三ノ廿五
繩暖簾に入る簡易生活の人々 三ノ廿六
夏の議會 三ノ廿七
氷の世界 三ノ廿八
電話交換局 三ノ廿九
東京驛に坐するの記 三ノ卅
都近い海水浴場の此頃 三ノ卅二
子供の觀覧を許された唯一の活動寫眞館 三ノ卅三
落毛の行方 三ノ卅四
畫室のモデル 三ノ卅五
襤褸から絞られる藍 三ノ卅六
今の織女 三ノ卅七
女占者の內幕 三ノ四〇
人形師 三ノ四一
蒼天井の下で無言の演劇 三ノ四二
車掌の奥様 三ノ四三

□名物教授

成瀨校長の倫理—日本女子大學校 三ノ三
マクベスを講ずる三谷民子女史—女子學院 三ノ四
英文典の權威津田梅子女史—女子英學塾 三ノ五
體操室の二階堂とくよ女史—女高師 三ノ六
造花の先生金子支枝子女史—女子職業校 三ノ七
怒るな働け主義の嘉悦孝子女史—女子商業學校 三ノ八
青山女學院の西洋美術史 三ノ九
教壇上の下田歌子女史—實踐女學校 三ノ十
女子美術の和洋畫 三ノ十一
東京音樂學校での三十分 三ノ十二

女の先生の印象

母らしい先生—富士見 三ノ廿三
算術の教授—愛日 三ノ廿四
同一授業の男女の先生—桑圳 三ノ廿五
讀み方の復習—青柳 三ノ廿六
生徒は所謂神田つ子—神田 三ノ廿七
生々した授業—本郷 三ノ廿八
參觀から得た僞らぬ感想 三ノ廿九

□婦人界開拓者の家庭

山脇博士と房子夫人 三ノ卅六
三輪田元道氏と其一家 三ノ卅七
芳賀博士と其夫人 三ノ卅八
宮田脩氏と其夫人 三ノ卅九
高島平三郎氏と其夫人 三ノ四〇
下田次郎氏と其夫人 三ノ四一
佐々木信綱氏と雪子夫人 三ノ四二
書齋を伴侶の成瀨仁藏氏 三ノ四三

□家庭の部

○秋の夜長の手すさびに▲孤兒院の首石となつた母の一語(富田榮子)▲菊見の小宴(手塚かれ子) 二ノ四五
○女中の使ひ方(佐久千代子)▲近來流行の瓦斯ストーブ(近藤耕藏)▲我が家の經濟料理(川口華子) 二ノ四六
○不眠症の人の看護法(藤井かう子)▲水仙と菊(千葉晩香)▲林檎料理 二ノ四七
○花模様の包紙利用(大村嘉代子)▲やさしい洋風料理(川中雪子) 二ノ四八
○溫暖なころには何が經濟でせう(河口愛子)▲此頃の惣菜(櫻井ちか子) 二ノ四九
○花籠入りの壜細工(大妻一惠)▲初冬の魚具 二ノ五〇
○薔薇の肱突(大妻一惠)▲賑つた日用品の相場▲クリスマスの家庭の饗宴に(櫻井ちか子) 二ノ五一
○正月の飾り(幸田露伴)正月用料理(川崎まさ子、鞍識男) 二ノ五二
○正月の遊び(高島壽子外六名流婦人)▲松竹梅(松梅齋一忠)▲新年に頂く端書や名刺を心地よく處理する法(河口愛子)▲歌留多會の御馳走(和田むめお) 三ノ一
▲春の七草(廣田花崖)
○▲古着の繕ひ(河口愛子)▲寒冒の手當(藤井かう子)一月の料理(和田むめお) 三ノ二
○凍瘡類の養生の仕方(村松石子)▲寒い日のお惣菜(和田むめお)▲氷豆腐料理(寒國の人) 三ノ三
○台所化學の生む經濟品(村松石子)▲毛織物の見分け方(須田豐作)▲寒い日のお惣菜(和田むめお) 三ノ四
○立春の園藝(千葉晩香)▲節分の献立(和田むめお) 三ノ五
○紀元節を寿ぐ花(安達潮花)▲銘仙の見分け方▲建築に適はしい裝飾(黒田鵬心)豚肉料理(和田むめお) 三ノ六
○銀杏雛▲お召と縮緬▲溫室の花▲ちり鍋と寄せ鍋(和田むめお) 三ノ七
○文場から家庭に(牧人舍主任)雛の節句の献立(和田むめお) 三ノ八
○お下髮代用のギリシヤ結び▲春の女袴(花崖)▲惣菜料理(和田むめお) 三ノ九
○臺所の殘物で鷄を飼ふ法(原田嘉次郎)▲古コートから仕立た學校服▲季節料理(和田むめお) 三ノ十
○體力と健康と頭腦と(新雲)▲前庭後園の妙用(廣田花崖)▲三時間毎の呼鈴(橋口香苗子)▲彼岸の精進料理(和田むめお) 三ノ十一
○膝の上の教科書(巖谷小波)▲耕のいろ〳〵▲花壇に取入るべき春の野草(廣田花崖)▲小鯛のやき方五種(和田むめお) 三ノ十二
○食べられる野の草(廣田花崖)▲家庭の洋風料理(某洋人料理人) 三ノ十三
○立派な敗北者(薄田斬雲)▲小兒の智慧熱(橋口香苗子▲季節料理(和田むめお) 三ノ十四
○春の遊び場所(斬雲)時節の見分け方▲野遊びのお辨當(和田むめお) 三ノ十五
○洗ひ張りの仕方(若原榮代子)野遊びの洋風辨當(和田むめお) 三ノ十六
○此の頃流行る鼻腔ザフテリヤ(杉田鶴子)▲進んだ染色法▲齒に苦んだ經驗(斬雲)▲惣菜料理(和田むめお) 三ノ十七
○家庭より學校へ(薄田斬雲)▲頭垢と脂(松下克治)▲手拭地のカーテン(河邊まり子)五月の小宴に(川崎まさ子) 三ノ十八
○上着の防水法▲今下ろす野菜の苗▲手輕な西洋料理(和田むめお) 三ノ十九
○晝寢の利害 大澤博士▲流行の洋傘▲肉の種類と見分け方▲甘美しいお汁の拵らへ方 荻野佳子) 三ノ廿
○胃痙攣の苦み(薄田斬雲)▲蠅や蚤蚊は今から防げ(大橋廣子)初夏の着付け▲糠味噌をおいしくする法(伊藤いく子) 三ノ廿一
○上品で格好のよい夏帽子の作り方(佐藤さみ子)▲外つ國での坊やの日記(片山操子)▲早漬け(伊藤いく子) 三ノ廿二
○兒童貯金とは何ぞ(薄田斬雲)▲濕氣の多い六月の衛生(井出茂代子)▲人手の省ける臺所の設備▲兒童と校外の取締(爾名士)▲若葉の料理 三ノ廿三
○兒童と貯金▲手拭地夏布團▲世界の子守唄▲昨今の果物の貯へ方(某洋人コック) 三ノ廿四
○胃腸によいマッサージ(藤井かう子)▲梅漬け三種(櫻井ちか子) 三ノ廿五
○生れ付きの容姿を變へる表情術(山村郁子)▲中元の贈物(柳八重子)▲世界の子守唄▲暑氣の此頃喜ばれる食品(菜食通)
○氣に入つた避暑地(淺田みか子)▲ 三ノ廿六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○冷たい飲物(櫻井ちか子) ▲茄子の和洋調理法 三ノ廿七
○汗をかく人(松下克治) 三ノ廿八
○避暑地のわが家族(ガントレット恒子) ▲纖弱い草花を保たせるには(水町たづ子) 泥鰌の料理(手塚かれ子) 三ノ廿九
○物品の手入(河口愛子) ▲子供の避暑服(ガントレット恒子) ▲永い絶食療法は不可(藤井かう子) ▲夏の容膳に(水町たづ子) 三ノ卅
○物品の手入(河口愛子) ▲涼しい菓子(櫻井ちか子) 三ノ卅一
○旅行さき眼(前田博士) ▲汗になった着物の手入(若原榮代子) ▲毎日取るべき副食物(石塚食養所長) 三ノ卅二
○秋口の養生(杉田雄子) ▲日に焦げた皮膚の手當(小口みち子) ▲唐茄子の洋風料理(戰餓男) 三ノ卅三
○染め返し法(大妻一惠) ▲郊外の住ひ▲家庭用の食パン(戰餓男) 三ノ卅四
○一日一回の口中驗査勵行(大久保澄) ▲整頓法の研究(斬雲) ▲秋の園藝(瀬野信子) ▲冬物の相場▲西洋人參の料理(戰餓男) 三ノ卅五
○惡戯らしい子供の實驗(田中芳子) ▲足袋の仕立方(大妻一惠) ▲一品料理(手塚かれ子) 三ノ卅六
○補綴のしかた(河口愛子) ▲子供の作法(ガンドレット恒子) 季節料理(川崎まさ子) 三ノ卅七
○子供の喧は成るべく避け度い(淺田みか子) ▲身體異狀の兒を有つ家庭へ(薄田斬雲) ▲足袋と蚊帳のつぎ當て方(河口愛子) ▲秋茄子 三ノ卅八
○夜着と毛布と何れが徳用か(佐久千代子) ▲三十錢で出來る客膳(川崎まさ子) 三ノ卅九
○▲小崎家の新藥拜見 ▲古物をミシン刺繍で生かす法(矢野元子) ▲甘藷料理(川崎正子) 三ノ四〇
○米に代る簡易な食養(若林欽) ▲活動眞の規則改正と我家の子供(ガンドレット恒子) ▲輕い訪問の場合(同上) ▲初袷の流行 三ノ四一
○秋の皮膚病(松木勝子) 雨續きの頃の樂器の手入▲保健に叶ふ經濟な獻立(秋穗益實) 三ノ四二
○草木に施す耐寒の手當。 ▲天長觀日の家庭小宴に(川崎正子) 三ノ四三

□雜の部

收穫の歌聲(臼井龜雄) 二ノ四五
茶道の哲理(薄田斬雲) 同
田園の秋(廣田花崖) 二ノ四六
長者が菊(同) 二ノ四七
顏世御前(同) 二ノ四九—五一
頭腦の經濟法(薄田斬雲) 二ノ四七、八
思ひ切つた亞米利加婦人(片山操子) 二ノ四七、八
良妻賢毋が生んだ悲劇(小庭もみぢ) 二ノ四九
嗅覺の魅力(薄田斬雲) 同
滿妻(臼井龜雄) 二ノ五〇
五種の顏付き(薄田斬雲) 二ノ五一
何故に美人少きか(同) 二ノ五二
送年記(廣田花崖) 同
私の最も幸福と感じた時(十三名流婦人) 三ノ一
福引と富籤(薄田斬雲) 同
テニソンの婦人觀(久布白落實子) 三ノ二
笑は女を醜くす(薄田斬雲) 同
希望の花(廣田花崖) 三ノ三
惡い癖と間違つた見榮(薄田斬雲) 同
北方の產物を輸入せよ(薄田斬雲) 三ノ四
支那の正月(臼井龜雄) 三ノ五
臺灣の震災(富島祥子) 三ノ六
秘密は女の生命なり(薄田斬雲) 三ノ七
ラスキンの婦人觀(久布白落實子) 三ノ八、九
都會人の退化(薄田斬雲) 三ノ八
饒舌るよりは謠へ(斬雲) 三ノ九
適應性を養へ(同) 三ノ十
東京だより(第一信) 三ノ十二—廿六
淺薄な專門の危險(薄田斬雲) 三ノ十三
さくらの記(廣田花崖) 三ノ十四
我が皇后と幼兒の群れ 三ノ十五
哲學美人ハイペシア(安中花子) 同
東京の花と實(斬雲) 三ノ十六
琴から三味線へ(斬雲) 三ノ十九
御禮一言(久布白落實子) 三ノ廿
不公平なる婦人觀(斬雲) 同
敬せらるゝ婦人(同) 三ノ廿二
涙の安賣(同) 三ノ廿五
皐月晴れ(同) 三ノ廿六
低級勤め人を夫に持つた婦人の苦境(同) 三ノ廿七
征服か救濟か(同) 三ノ廿八
卒先性を養へ(同) 三ノ廿九
衆愚の解釋(同) 三ノ卅
狸の背中(同) 三ノ卅一
漁夫と百姓(同) 三ノ卅二
旅信(三角錫子、吉田清子、川口華子) 三ノ卅三
星の世界(山岡勘一) 三ノ卅四
女先生の服裝(斬雲) 同
東京だより 三ノ卅五
病床雜記(同) 三ノ卅六
醫者と辯護士(同) 三ノ三七
路傍樹の美觀(同) 三ノ三九
山登りの好期(同) 三ノ四〇
暴風雨のあと 同
細君內助の惡(同) 三ノ四一
海は神秘の鄕(若林欽) 三ノ四二
地方生活を推奬す(斬雲) 同
ハーバート大學の名物 同

□文藝の部

小說

暗調(高田てい子) 二ノ四五—五一
雜記帳から(同) 二ノ五二
力(木内錠子) 三ノ一—十
うなだれたる心 三ノ十一—十九
雜草(茅野雅子) 三ノ廿一—廿八
獸爭(高田てい子) 三ノ廿九—卅一
「獸爭」について(同) 三ノ卅二
犬と彼等(同) 三ノ卅三—四二

短歌

さすらへ心(二ノ四五)妹(二ノ四六)生死(二ノ五〇)甲斐の山(三ノ二)わかれ心(三ノ四)邪宗(三ノ六)黒髪(三ノ十)夢の華(三ノ十六)器械の如し(三ノ十九)なでしこ(三ノ廿二)野ばら(三ノ廿五)稻妻(三ノ廿七)若き日(三ノ廿八)木瓜(三ノ卅)夢の華(三ノ卅四)うつせみ(三ノ四三)安中花子
萩の花(三ノ四二)立木鋌子

□子供欄の部

オハナシ

霜の慰み(あづま)二ノ四五 黄蜂と蜜蜂(花崖)二ノ四六 信子さん(同)二ノ四七、四八 次郎お猿の失敗(恭子)二ノ四九 茶色の小犬(同)二ノ五一 サンタクロス郵便函(東)二ノ五二 太郎の元日(同)三ノ一 雪姫物語(廣田花崖)三ノ二—四 勳一等の犬(廣田花崖)三ノ五 方便馬鹿(同)三ノ六—七 二疋の蜂(同)三ノ八 史談光秀の妻(吳羽)三ノ九、十 柔和の天使(花崖)三ノ十一 決して怒らない人(同)三ノ十四 畑の魔法(同)三ノ十六 父のよろこび(同)三ノ十七 强者と弱者(同)三ノ十八 火藥の種子(同)三ノ十九 一緒に食つた人(同)三ノ廿 自然兒(山本癸子譯)三ノ廿一—四十三 虛榮娘(廣田花崖)三ノ卅三月夜の市(波留子)三ノ卅七—卅九 黄金の露(同)三ノ四〇—四二
外に「子供の智慧」「子供のせかい」等

□挿畫

儉約物語(近藤浩一路)二ノ四五—三ノ四 初日(森作胡仙)三ノ一 新舊衝突物語(近藤浩一路)三ノ五 廿六 見合失敗物語(近藤浩一路)三ノ廿七—卅六

十七

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時事

□御一代一度の奉納　聖上陛下より今回伊勢大廟へ七種の神寶を御寄進遊ばされる事と伺ひます。是れは久しく打絶えてをりました御恒例を復興の思召に出でたものと拜察致します。

□皇后陛下聾啞學校へ行啓　去る十九日皇后陛下には小石川區指ヶ谷町なる東京聾啞學校へ行啓可憐なる生徒の授業等親しく御覽遊ばされ、學校へ金五百圓、校長に袴地一反、教職員以下並に生徒一同へ御菓子料をさへ御下賜に相成ました。

□御救恤金下賜　兩陛下には先般の暴風雨の爲左記二府六縣の罹災者へ御救恤金の御下賜の御沙汰に及びました。京都府へ六百五十圓。埼玉縣へ九百圓。新潟縣へ七百圓。靜岡縣へ千圓。宮城縣へ九百圓。福島縣へ四千圓。更に朝鮮總督府管下へも金二千二百圓下賜されました。

◉聯合國軍事會議會開地　近く開かるべき聯合國軍事會議は多分佛國首都巴里に於て開かれる由であります。

◉米政府船舶を徴發す　同國船舶局は英佛兩國の諸會社の註文に依りて建造中の三千五百噸乃至六千噸の鋼製貨物船二十隻を佛國政府の需要に應ずべしとの命令を發布しました。

◉獨逸新公債應募額　アムステルダムよりの報道に伯林政府の發表する所に據れば、新軍事公債の應募額は百二十四億三千二百萬馬克に達したさうであります。

◉露艦二十隻封鎖に逢ふ　露國軍艦約二十隻はモーン水道内に封じ込まれ、甚だ危險の狀態に陷ってをります。

◉支那事情　同國四川全省には戒嚴令を布きて南軍に備へをたてました。

◉明石艦還る　地中海に於て名譽の戰死を遂げたる驅逐艦榊艦長海軍中佐上原純信氏以下五十五名の英靈を乘せたる巡洋艦明石は、去る廿二日横須賀軍港に入港いたしました。

◉郵船常陸丸の消息　我が郵船常陸丸は古倫母を出帆したまゝ、一ヶ月沓として其の消息を絶ちましたので、時節柄其の安否も詳かにし難く關係者一同憂慮しつゝあります。乘組員は全部日本人で百名近くあったとの事であります。

□東宮新御用掛　東京高等師範學校教授理學博士和田猪三郎氏は、去る十八日東宮御學問所御用掛となられました。

◉教育會議總會　臨時教育會議總會は去る廿五日午前内閣に於て開會致され『市町村立小學校教育費國庫支辨案』を議題として協議がありました。猶前日廿四日には文相官邸に於て義務教育の延長問題に就いての審議がありました。

◉世界的の發明　わが遞信省技師工學博士利根川守三郎、同鳥潟右一郎兩氏指導の下に無線電話と有線電話とを聯結し得る驚くべき世界的の發明が最近に發表されました。若し是れが一般公衆に使用さるゝ日が來るならば、遠く太平洋上の船内の人と東京市内の各加入者とが自由に通話する事が出來るのであります。

◉赤帽と切符制度　さきに列車ボーイの心づけを廢した長尾中部管理局長は、更に旅客の便を計って赤帽の賃金を切符制度と改正すべく、各管理局で打合中との事であります。而して是れが實施されるやうになれば、各驛共通のものとも爲やうと考慮されつゝあるとの事であります。實施後の便宜は尠くないことゝ思はれます。

◉全國女教員大會終了　かねて非常なる期待を持つて開かれたる日本最初の全國女教員大會は豫定の通り去る廿一日より三日間神田一ツ橋なる帝國教育會に於て開會されました。各府縣から集まつた處の代表者百六十名議長には澤柳政太郎氏を戴き文部省諮問案二件、研究問題六件に就いて充分に研究をし、各自の意見等を討議しました。そして豫想以外の効果を納めました。尚一同は卅三日宮城拜觀を許されました。

◉大正婦人會生る　去る廿日山脇高等女學校の講堂に於て兼ねて報道された如く、婦人教育會、東洋婦人會、外人の二婦人會、都合四婦人會の聯合した大正婦人會が開會されました。出席の日本婦人は鍋島侯夫人、水野内務次官夫人、小室夫人、山脇女史、嘉悦女史、三輪田刀自、井深夫人等外國婦人ではミセスコールマン外三十餘名でありました。山脇女史の會の成立に就ての報告につぎコールマン女史の「シヸックの意義及び必要」新渡戸博士の「婦人の力」等の講話があり有益なる會でありました。

◉不知火の正體　去る十九日夜品川沖に現はれた異樣の光は、岸上博士實地調査の結果、一種の下等動物『クムノザニウム』と云ふものが暴風によつて我が海岸に吹き寄せられ、過日來の蒸し暑く濕氣の多きに、急劇に繁殖した爲めといふことが發表されました。今回のやうな現象が我が海岸に現はれたのは初めてださうです。

◉新博士四名　穗積重遠氏は法學博士に、柳川華吉氏、酒井星造氏、八田善之進の三名の醫學博士になられました。

◉中央大學へ寄附金　曩きに帝國學士院に金一萬圓を寄附されたる山下龜三郎氏は今回中央大學の罹災(出火)に同情金二萬圓を同校維持費に寄贈する旨同校々長へ申出でられたさうにあります。

◉文展審査發表　目下開催中の文部省美術展覽會の審査は去る廿一日終了し、廿二日官報を以て發表されました多數の出品者の中から推薦され特選された人々は日本畫の特薦鏑木清方氏外十五名洋畫三宅克已石川寅治兩氏の推薦を初め特選七名、彫刻北村西望、小倉右一郎、建畠大夢三氏の推薦及び特選三名であります。

◉文展に行幸啓奏請　岡田文相より兩陛下文部省展覽會へ行幸啓の趣き奏請に及び多分御聽許相成べく、同時に櫻ヶ岡美術協會、池の畔化學工藝博覽會等へも行幸啓仰出されやに承ります。

◉教科圖書調査會長　教科用圖書調査委員會々長は、小松原英太郎氏が任命されました。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◉來朝の途にあるハーデー氏 今を去る六十餘年前ペルリ提督に從つて相州浦賀に來航した水兵の一人現今迄生き殘つた只一人の同氏は、日本を懷しんで今度八十餘歲の老軀をもいとはず、來朝されるとの事で、今や洋上の人となつてをります。

◉靖國神社例祭 去る廿二日より三四の三日間は九段靖國神社例祭にて折柄久しき雨も止んで秋晴れの空爽やかに市中は一入の賑かさでありました。

個人消息

▲須田壽美子 工學博士須田利信氏令孃壽美子孃(廿六)は中上川鐵四郞氏(卅一)と松方巖氏の媒妁にて來月結婚せらるゝ由新郞は慶應出身新婦は學習院出身

▲安中花子 近く「お話」の書物を出版さるゝ筈

公娼廢止運動費

本社宛寄附の分(一口金五錢)

秋山あき子(十口)無名女(四口)

小計 十四口 累計 七百二十三口

編輯室より

▲この號は例によつて一ケ年分の索引を付して御便宜に添えました。時が織り行く歷史の路が、はつきりと見えて、讀者の皆樣も必ず無味には思召されぬ事と存じます。▲高田てい子女史の「犬と彼等」は好評の中に前號を以て完結いたしました。次號記念號から、新らしい作者の方を御紹介する積りです。さらば。

人事相談所

□本所は婦人週報社の附屬事業として、世の煩悶に惱める男女に同情し、精神上、生活上、其他有ゆる相談に應じ、最も善き解決を與へます。

□本所は絕對秘密の下に、結婚調査、人物調査、財產調查、男女學生品行調查、裁判上の證據調查等の御依賴に應じ、親切と誠實を以て其の任に當ります。但しこれは依賴者が至當と思はれる程の低廉な調查料を申受けます。

□本所に御相談なされたい方は、書面にて申越されるか、若しくは直接面會に來て下さい。面會時間は日曜水曜を除くの外午後零時より、午時四時迄です。

東京牛込區市ケ谷田町二丁目十七番地
婦人週報社內(電話番町四五六六番)
人事相談所

婦人週報

(每週金曜發行)

定價表

△壹部金五錢(但し郵送料五厘を含む)
△一ケ月(四部又は五部)金二十錢
△三ケ月(十三部)金六拾錢
△半年(廿六部)金壹圓拾錢
△一年金貳圓廿錢

廣告料

△特等(表紙の二、三、四)金參拾圓
△壹等(表紙の三、白紙前付)金廿五圓
△貳等(色紙の表側)金廿貳圓
△參等(色紙の內側)金貳拾圓

注意

▲御註文は一切前金の事▲郵券代用には必ず一割增の事▲送金の爲替名宛は東京市牛込區市ケ谷田町二丁目十七番地婦人週報社▲振替口座は東京三一六六〇番▲雜誌發送を以て領收書に代ふ

編輯兼印刷人 東京市京橋區銀座四丁目一番地 小橋三四子
印刷所 東京市牛込區市ケ谷田町二丁目十七番地 福音印刷株式會社
發行所 婦人週報社
振替口座東京三一六六〇番
電話番町四五六六番

齒科診察

府下千駄ケ谷町五百六十三番地

齒科醫學士 大久保透

シンガー裁縫院 生徒募集

●和洋服刺繡(東京有樂町一ノ五)

●ミシン專修 ●每月五日迄入學

弊店の特色

御召 織式 縞染

△古手物モ新規同樣ニ相成候

△出來期日ハ最モ正確且ツ迅速ヲ旨ト致シ候

△御註文ノ際ハ御一報次第早速店員御伺御用命ニ應ズベク候

中澁谷六百十八番地

(玉川電車通西鄕邸前)

百足屋染物店

平田孫太郎

大島バタ通信販賣

東京灣三十里の東にある望氣清新、四季綠草をもて覆れたる天與の酪農地伊豆の大島に產せる純良、風味卓逸、心地よき黃金色の最上バタを試みられよ

定價 郵金稅共 半斤 金七十五錢
壹斤 金壹圓參拾錢

東京銀座二ノ十二紀伊國橋

佐野商會

電話京橋一四四番

振替東京三四九六二番

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

診察毎朝及毎夕但祭日及日曜之他
院長診察　月、金、木午前及(木)午後六時
林、峰間兩副長は目下當院に在勤
東京三番町三十番地（市ヶ谷見附内）
電話番町　六二一番

東洋内科醫院

院長　醫學博士　**高田畊安**

電話ちがさき二番

南湖院

神奈川縣茅ヶ崎海濱（從停車場半里）
河野、高橋兩副長は目下當院に在勤
院長診察　土曜日　午後入院診後應需
診察毎朝但祭日及日曜及土曜之他

大黒天印　赤 白

宮崎葡萄液

宮崎葡萄液ハ「アルコール」分ヲ含マズ最モ滋養ニ富ミ上戸ニヨク下戸ニモヨシ御婦人御子供衆ニモヨク頗ルオモシロキ理想的好飲料

大小數種化粧箱
商品切手調進仕候

東京市日本橋區通旅籠町
發賣元　**甲斐產商店**
電話浪花八七〇、八七一

宮内省御用達

耳鼻咽喉科專門

大野醫院

院長　耳鼻咽喉科　**大野喜伊次**
（入院隨時）
東京京橋區南鍛冶町廿七
電話京橋一〇三五

◎產婦人科◎小兒科

宅診午前　往診午後
病室、產室ノ設アリ入院ノ需メニ應ズ

院長　**女醫　吉岡彌生**

東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地
電話番町　三三五七

東京至誠病院

英語生徒募集

高等女學校卒業生に適當の各級あり又年長者にして英語初歩より學ばんとする者にも懇切に教授す　（ピアノ個人教授の需めに應ず）

英語專門私立　**櫻井女塾**
本郷區彌生町三番地（電話下谷六八一五番）

產科、婦人科、小兒科

東京府内藤新宿番衆町卅一番地
女醫　**井出茂代**
電話番町三六七七番

松下皮膚科醫院

○診察、午前、夜間
○京橋南八丁堀櫻橋際
（電京　一二三一番）

家庭衛生講習會

一、目的　家庭に必要なる衛生及衛生マッサージを教授す。
一、場所　赤坂區新町三丁目四十六番地婦人矯風會本部内。
一、期間　自毎月十六日至次月十五日月水金午後二時より四時迄。
一、講習科　金十圓也前納の事。
一、人員　十名を以て定員とす。
一、證書　講習修了者には修了證書を交付す。
一、特典　講習修了者は會員として隨意に傍聽又は研究する事を得。
一、主催　婦人矯風會本部。
一、講習主任　醫師藤井孝。

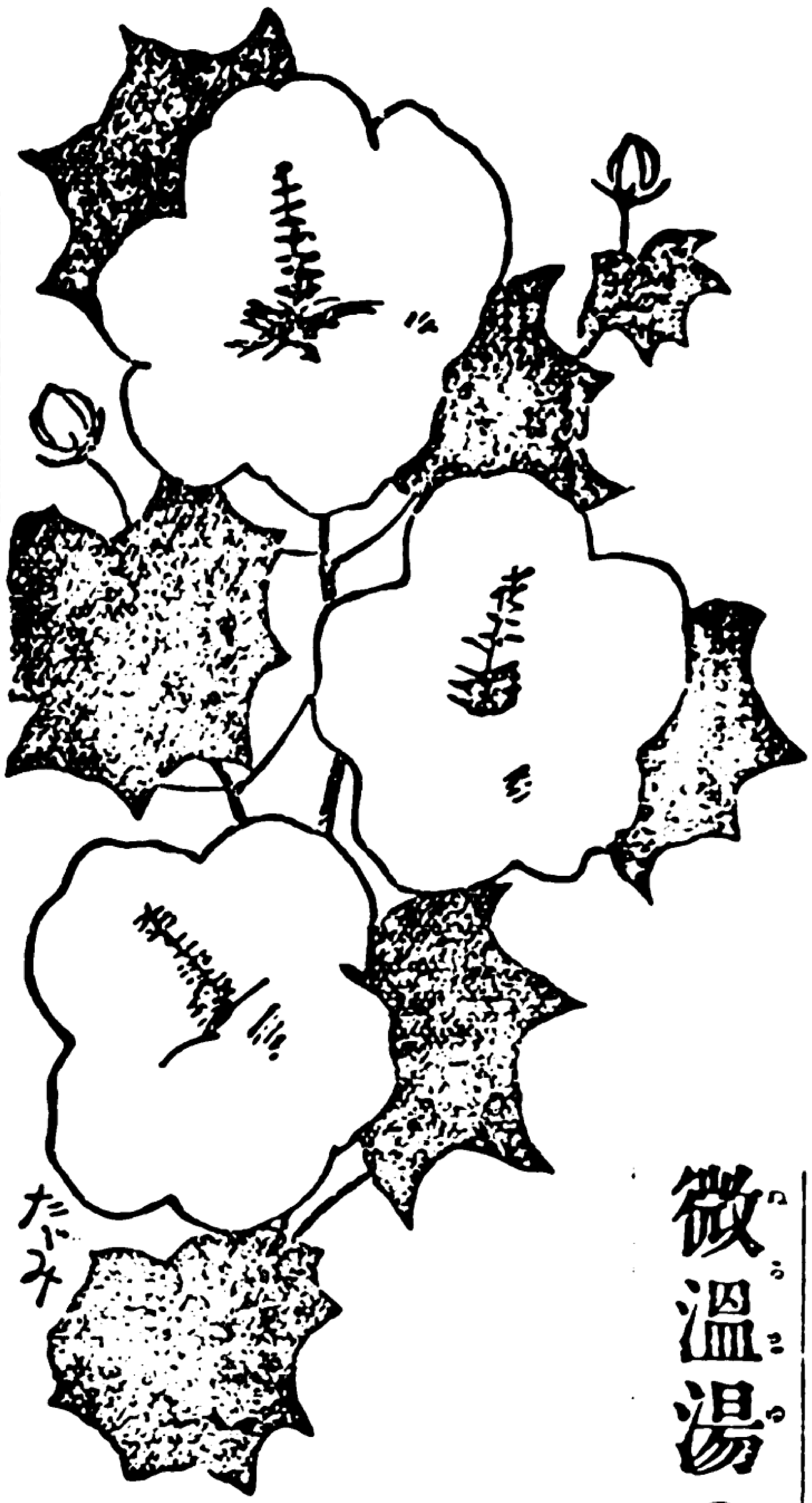
右御希望の方は至急赤坂區新町三丁目四十六番地婦人矯風會本部（電話芝一七五三）に申込まれたし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

冷々するは肌の大敵！

秋の肌アレを防ぎ色白くする……

アレの原因は此の冷々する時肌の手入れを怠るからで厶います



再三宮内省御買上の光榮を賜る家庭化粧料

ホーカー液

微温湯の洗面の後へ

（簡易な化粧が却て大切）

皮膚が柔かく肌の分子が開いた處へ、ホーカー液、一二滴を少し摩り込み加減にお塗けになると、皮膚には少しく白いお化粧が施せる上に幽かな血色が浮いて、目の覺める美しさを表現します。

▼全國到處に販賣す品切の際は振替又は三錢切手代用にて直接本舗宛御注文願上候。

ホーカー液
ホーカー白粉
ホーカー美髪液
ホーカースポート

東京神田和泉橋
本舗　堀越嘉太郎商店
振替口座東京一五六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

發行所 東京市牛込區市ケ谷田町二丁目十七番地 婦人週報社

御料

御園白粉

御園白粉及御園化粧品は畏くも御料に召させ給ふ本邦唯一完全優良なる化粧料にして最新の科學に依り原料と芳香を精選し皮膚の衛生と美容の目的に適ふ配合を以て冗費を省き包裝を飾らず實質を本位とする化粧品なり。

御園白粉は純無鉛製にして殺菌消毒を施したれば安全なるは勿論永久の保存と氣候の變遷に堪へ効能に變化なく濃淡自在乘りよく伸びよく斑點を生ぜず生れ乍らの美さを現す事化粧品界に其比を見ざる白粉中の模範品なり。

御園白粉
御園の月
御園の花
御園撫子
御園紙白粉
御園四季の花
御園の露
御園の雪
御園クレーム
御園香精
御園の橘
御園香油
御園歯磨
御園ルチゲン

本舗 伊東胡蝶園・發賣元 丸見屋商店

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA